第３号

令和４年７月２９日

大豆特報

魚　　津　　市
魚津市農業技術者協議会

大豆は、単作及び麦跡ともに順調に生育しています。
畦間かん水や適期の防除で、大豆の収量・品質向上を高めましょう。

１　畦間かん水　～９月上旬ごろまでほ場の乾燥に注意しましょう～

○晴天日が３日以上続いて、ほ場が乾いてきたら、早めに畦間かん水を行いましょう。

○かん水は、ほ場全体に水が行きわたったら、速やかに落水しましょう。
水をためたままにすると湿害が発生し、逆効果です。

大豆の葉が水分不足で裏返る前に畦間かん水をしましょう！

【畦間かん水の効果】

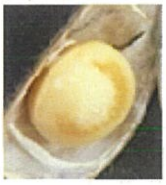
①莢数の確保
・落花・落莢の防止
（青立ちの発生防止）

②百粒重の増加
・根の養水分吸収量の増加
・光合成の促進
・根粒による窒素固定能の維持

③品質の向上
・ちりめんじわ粒の発生防止
・茶色のしみ状斑紋粒（高温に伴う物理的損傷）の発生防止

ちりめんじわ

しみ状斑紋



２　病害虫防除　～大豆の生育と病害虫の発生に応じて、適期に実施する～

体系		回数	散布農薬名	１０ａ当たり散布量	収穫前日数
基本防除	粉剤体系	１回目	ＺボルドートレボンＤＬ	３ｋｇ	１４日
		２回目	トライトレボン粉剤ＤＬ	３ｋｇ	１４日
	液剤体系（※ドローン等無人航空機による防除）	１回目	アミスター２０フロアブル	１６倍　０．８ℓ	７日
			スミチオン乳剤	８倍　０．８ℓ	２１日
		２回目	トライフロアブル	８倍　０．８ℓ	１４日
			トレボンエアー	８倍　０．８ℓ	１４日
随時	ハスモンヨトウ		プレバソンフロアブル５	１６倍　０．８ℓ	７日
	葉焼病（シュウレイのみ）		Ｚボルドー	５００倍　１００ℓ	－

※葉焼病の防除は、７月下旬頃に予防散布を行いましょう（ドローンなどの無人航空機では散布できません）。

※基本防除の１回目は「莢が伸び切った頃」、２回目は「豆が十分に膨らんだ頃」が散布時期の目安です。